

世界を生きる

Living in the World



学校法人 渡辺学園 理事長
菅谷 定彦

日経米州編集総局長時代10

米大統領選 ブッシュ副大統領の勝利を予言

NY稲門会副会長として竹下新首相と面談

日本経済新聞社の初代米州編集総局長(ニューヨーク駐在) 1年目の奮闘ぶり、その前後の度重なる海外出張と内外の名門コースでのプレーを紹介してきた。今回からは総局長2年目、1988(昭和63)年の仕事ぶりを紹介する。前年10月のニューヨーク株式大暴落は短期に収束、円相場は同年12月3日に1ドル112.2円の最高値を記録した。この円相場は私がニューヨーク特派員時代初期の1ドル136.0円に比べ3.4倍の円高に上昇したことになる。

我々駐在員の経費はドル建て送金なので、あまり変化はないが、訪米者にとって経費処理はぐんと楽になる。1988年は特に4年に1度の米大統領選挙があり私の仕事は多忙になるが、訪米客も増えるのは確実。ならば積極的に来客と会い知り合いの輪を拡げようと考え、新しい年を迎えた。

その1988年の来客第1号は1987(昭和62)年10月20日、安倍・宮澤との3人の自民党総裁候補中、当時の中曽根首相から後継と指名された竹下登首相だった。訪米最大の目的は1月13日ワシントンでのレーガン米大統領との初会談。これに先立ってニューヨーク入りした竹下首相が会ったのは在ニューヨーク稲門会の会長・副会長と島根県人会の幹部の2組だけだった。

マンハッタンウォールドーフ・アストリア・ホテルの竹下首相の特別室に招き入れられたのはNY稲門会の堀田会長(日本航空NY支店長)、副会長の大平東宝NY駐在代表、副会長の私ら会長、副会長総勢6人。当方から総理就任のお祝いを述べ、竹下首相から稲門会会長、副会長にニューヨークでの仕事ぶりについて質問があった。私は日経編集総局長の「三極編集体制」の初代米州編集総局長の仕事ぶりを説明、「さすが日経ですね。頑張ってください」と激励されたが、竹下首相の「母校早稲田大学」と「ふるさと島根」を大切にすることを好意を持った。

「NY稲門会」は私がニューヨーク特派員3年目の最終段階の1974(昭和49)年1月、早大OBで野村證券NYの寺澤支店長(のち野村證券副社長)から「菅谷ちゃん、有力大学で在NYOB会が無いのは早稲田だけ。2人で発起人にならないか」との話があった。私は3月末で帰任の予定なので私と同じ第1政治経済学部の河村NY特派員を伴い、石油シノク直後のウォール街の薄暗いレストランで打合せたのがスタート。それから15年、慶応大学に比べ「群れない」早大のNY稲門会が立派に発展しているのを確信出来た一幕もあった。

1988(昭和63)年5月上旬、鮫島取締役東京本社編集局長と三極編集体制の在京責任者、市岡国際総部長がNY入りした。私は田勢支局長らワシントン支局全員とシカゴ、ロサンゼルス、サンパウロ

の支局長、記者全員をNYに集めた全体会議で総局1年間の成果を苦勞話を交え説明、編集局長から「よく頑張っている」と高い評価を得た。

翌日、お2人を車で小一時間のハドソン川沿いウエストポイントにある陸軍士官学校を案内した。アイゼンハワー大統領や、終戦直後の日本を総司令官として統治したマッカーサー元帥らを輩出。1955(昭和30)年、制服のカラーを象徴する「長い灰色の線」(ジョン・フォード監督)の映画でわが国でも有名になった学校。日本からの来客で時間のある人は、ニューヨーク郊外の高級住宅、リゾート地帯のロングアイランドウエストポイントをドライブすることにした。だが、鮫島、市岡両氏ともわが国に深い縁のあるウエストポイント行きを大変喜んだ。

次の重要任務は11月上旬に行われる米大統領選挙の取材体制である。中心になるニューヨーク総局とワシントン支局とで取材報道体制を打合せ中、共和党のブッシュ(父)副大統領と民主党のデュカキスマサチューセッツ州知事の両候補の戦いで、ニューヨーク・タイムズ、ウォール・ストリート・ジャーナル、ワシントン・ポストら米主要紙の報道や総局記者の見方も人柄の良いデュカキス候補(民主党)が優勢との声が強まっていた。

しかし私は歴代の大統領選の歴史を調べる中で、カギは「平和」「好景気」にあると判断した。「平和」では1987(昭和62)年12月、米ソによるINF(中距離核戦力全廃条約)締結。1988(昭和63)年8月、8年続いたイラン・イラク戦争の終戦協定が成立し平和ムードが高まっていた。ベトナム戦争敗北の大きな傷も残っていた米経済は1987(昭和62)年10月の株価大暴落、ブラック・マンデーが短期間で収束、GDP(国内総生産)は上昇基調、失業率も低下していた。

明るく弁舌さわやかなデュカキス知事に対し地味なブッシュ副大統領の個人的人気は低かったが「平和」「好況」の2大条件は合格点。米国民はこれを実現したレーガン共和党政権のナンバー2を選択すると私は見ていた。この時期、1988(昭和63)年9月に昭和天皇が、腸通過障害で手術、念願の沖縄訪問を中止されたが、学生を含む日本人グループの

ニューヨーク訪問は引きも切らず。しばしば講演に招かれた私は「ブッシュ勝利」を解説し続けた。

この間、バブル景気と円高の下、日本企業、銀行などの支店、出張所開設が相次ぎ2週間に1回のペースで有力ホテルでブラクタイ着用のパーティが開かれた。日本人も米国人も毎回同じ顔ぶれ。日本人は男性一人が多かったが米国人は婦人同伴が普通。寿司や焼き物が出る日本企業のパーティは人気があった。招待状はMr.&Msと書いてあるのが普通だがある日、Mr.& Spouse onlyと書いてあるのが来た。秘書に聞くと、米国人は秘書や愛人同伴が少なくなく、これを阻止するため正妻を意味するSpouseとするとの説明で、なるほどと大笑いしたものだ。



鮫島東京編集局長(左)、市岡国際総部長(右)をウエストポイントの陸軍士官学校に案内(お二人とも逝去) マッカーサー元帥の銅像前で